

インタビュー

旧富士山測候所の建物を学術研究や教育面で生かそうと2005年に発足。気象庁から建物を借り受け、今夏は16グループが大气や永久凍土、宇宙線、医学などの研究を計画する。東京生まれ、60歳。東京農工大教授(大気化学)。

—最近の活動状況は。
「富士山測候所は日本を台

富士山測候所を活用する会理事長

はたけやま しろう
畠山 史郎さん

風から守る砦(とりで)だった。衛星の発達で気象観測の役割は終えたが、日本一の高所の立地は大气、高所医療の研究に最適。建物もまだまだ使える。研究者有志で立ち上げたこのNPOを中心に、それぞれの研究分野では論文発表などを通じて徐々に成果が認められてきた。ただ、一般向けの情報発信は不足気味。そこが当面の課題」

—山頂は、どのような研究に適しているのか。

「日本は大陸からの偏西風の出口に当たる。大陸の汚染



研究を離れても「富士山は魅力的」と話す畠山理事長—東京都府中市の東京農工大

日本の高所研究の拠点に

物質が気流によってどう運ばれ、どう変質するかといった研究で考えると、高所の測定は一般に飛行機を使うが、コストが高いばかりか、1回で数時間程度の測定しかできない。地上観測なら連続的な測定が可能で、変化を追える。富士山頂はそうした意味で重要な観測点と言える」

—将来展望をひと言。

「残念ながら、将来の見通しはほとんど立っていない。雨漏りなど建物の老朽化は否めないが、いったん撤去してしまえば、新たに山頂に造ることには困難。欧州のユングフラウ、ハワイのマウナロアのように高所研究の拠点として位置付けることが望ましい。世界の研究者にオープンにすることも一策かもしれない」

—富士山への思いは。

「休日に妻と富士山の見える山へ出掛け写真を撮るのが楽しみ。富士山はとにかく姿が美しく、存在自体が魅力的」

とうきょう便 ウィークリー

節電

自

。怪談
のように

大江戸線
エスカレ

後、長い
羽目に。

地下深く
〇：東

る、この
無縁の巨
ある。六

◆鉄道への疑問など公募 日本民営鉄道協会は9月30日まで、第5回「私とみんてつ」小学生新聞コンクールの作品を募集している。テーマは「くらしと鉄道」。日頃利用している鉄道や駅に関する疑問や疑問をテーマに、